

子育てしている人を孤立させない

大森 順子

東京都目黒区で5歳の女兒が父親から暴行を受けるなどして亡くなった事件は、社会に大きな衝撃を与えた。この事件を契機に NPO 法人の代表らが呼びかけて「なくそう！子どもの虐待プロジェクト」が発足し、署名活動が進められたが、求める対策の中の「児童相談所の虐待情報を警察と全件共有すること」という文言に賛否両論が集まっている（いつの間にか「全件」が「適切に」と変わっており、それもまた批判を受けた）。

一方、厚生労働省の発表によると、児童相談所での児童虐待相談対応件数は2017年度に13万件を超えた。児童虐待に通告義務が課せられ、特に全国共通の3ヶタのダイヤルいちやくが設置された2015年7月からの増加は著しい。

「児童虐待をなくしたい」と誰もが思っている。しかし、そのために必要な手段が「警察との連携強化」や「通告義務」でよいのだろうか。「正しいお母さんでなければいけない」という強い規範を内面化した現代のお母さんたちは、「子どもを泣かせてはいけない」「通報されたら子どもを連れていかれる」といった切羽つまった思いを胸に、家の中で息をひそめて子どもと対峙している。本来、困ったときに相談に乗ってくれたり、子育てを手助けしてくれる立場の児童相談所や警察や近所の人が、自分を監視し、値踏みし、裁く立場だと感じてしまうなら、本当にしんどいときに誰に助けを求めればよいのだろうか。そもそも子どもを育てるという行為は、ひとりで行うことではない。子育てはできるだけ多くの人の手で、できるだけひらかれた形で行うことが望ましい。子どもはたくさんの人と出会い、さまざまな人がこの世の中にいることを知り、いろいろな考えがあることを学んで成長していく。お母さん、お父さんだけで子育てせずに、周りのたくさんの人たちと一緒に子どもを育てていくことこそが、虐待をなくするための一歩だと思う。子育てしている人を、決して孤立させてはいけない。



PROFILE

おおもりじゅんこ：1988年に3歳の一人娘を連れて離婚。前後からシングルマザーと子どもにかかわる活動始める。2013年から「女性のための離婚相談 まえむき IPPO」を主宰。活動を広げて、2016年から仲間たちと「シングルマザーのつながるネット まえむき IPPO」としてネットワークづくりを開始。仕事はDV相談や人権講座の企画運営。趣味はダンス、読書、映画鑑賞、英会話など。娘から「欲望に忠実な女」と呼ばれている。